

第 12 回 尼崎市総合計画審議会 議事録

日時	平成 24 年 4 月 27 日（金）13：30～15：00
場所	すこやかプラザ 多目的ホール
出席委員	赤井委員、赤澤委員、加藤委員、川中委員、川向委員、佐竹委員、澤木委員、白石委員、高濱委員、辻委員、中村委員、林委員、東田委員、久委員、弘本委員、藤池委員、山本（正）委員、吉田委員、義村委員
欠席委員	稲垣委員、北村委員、塩見委員、高岡委員、土谷委員、長村委員、濱名委員、丸岡委員、安田委員、山本（起）委員、渡辺委員
事務局	吹野企画財政局長、蟻岡政策部長、安川行財政改革課長、奥平総合計画担当課長、太田協働・男女参画課長、伊元課長補佐、大前係長、江上主事

開会

委員出欠報告、配布資料確認（事務局）
会議録署名委員の指名（会長より名簿順に 2 名を指名）
（資料確認）

1 尼崎市総合計画審議会答申（案）について

会長

本日は、まず、前回の総会等の意見を踏まえて修正を行った「総合計画の答申案」の確認を行い、その後に、新たな総合計画を表す「キャッチフレーズ」について審議していきたい。

それでは、次第 1 の「尼崎市総合計画（答申案）について」、事務局から説明願いたい。

事務局

（答申案について説明）

キャッチフレーズに関しては、前回の意見を受け、計画策定後に市民と一緒に計画にふさわしいキャッチフレーズを決めていくという結論に至った。計画策定後に計画の説明会を行い、計画の考え方を周知していくと共に、計画全体を表すキャッチフレーズを決めていく予定となっている。

会長

前回の指摘を受けて修正した内容になっている。今回は最後の審議会であるため、全委員からご意見をいただきたい。

委員

議論の結果、うまくまとまったと思う。しかし、これで終わりではなく、これからはこれを動かすしくみをどう作っていくかが重要。特に P.79・80 の行財政の部分をどう具体化していくかが課題。その上に各施策がのっていく形となる。ぜひともこの 2 ページの内容を大切にしていきたい。

以前と比べ、各施策での指標も数値が具体化したことで指標としやすくなっている。計画

の実行中に意外に短期で実現できてしまうことや、また逆に達成が難しいと思われるものも出てくるかと思うが、臨機応変にその都度変更していけばいいと思う。

会長

12回にわたる審議会の成果でこの答申案ができた。極めて早い社会変化の中で、こういった計画を作ること自体がどうなのかという議論もあるが、都市の未来の展望を市民と考えることは重要であると思う。変化にどう対応させていくか、柔軟性が大切。作ったものをどのようにマネジメントしていくか、フレキシビリティが重要。行政に求められる役割はより重要化している。市民との協働は核心部分であり、今も議論をすべて公開しているが、今後も意見を共有していく姿勢でいきたい。市民が主役になる計画になればと思う。

自分の専門は産業・経済であり、尼崎市に対してその視点からもっと力を入れたいという思いがある。皆さんも同様にそれぞれのご専門の立場から尼崎市に対してこの分野に力を入れたいという部分があると思うが、議論の末、それぞれの分野がつながり、都市の総合的な計画としてうまく形になったと感じている。

委員

全体としてよくまとまったと思う。これからが勝負であると思う。この段階ではこれでよいが、これからまだまだ詰めていかなければいけない。住環境を例にとっても、今後ますます良くなっていくと思われるが、それに応じて目標も変えていかなければいけない。環境保全という表現が用いられているが、これから環境をどう維持し、どう活用していくのかが大切。今後この計画目標を見直しながら10年でより具体的なものにしていきたい。

委員

この計画を作成したことで時代が変わったのを実感した。社会にはいろいろな人がいて、いろいろな主義・主張、ものの見方があるということを反映して、「計画」が多元主義的なポストモダン社会の公共性を意識した、大きなまちならではの総合計画となったのではないかと。これから全員で尼崎市を良くしていく一つの目標として、議会・職員と共に市民が尼崎市を作っていくというよい総合計画になったと思う。

委員

この計画を作るにあたり思ったことは三点ある。一点目は日本の中で兵庫県、兵庫県の中で尼崎市は経済の最先端を歩んできたが、まだまだその可能性をもっており、全体を引き上げていくには、ものづくりをどう位置づけていくか、支えていくかが重要だということ。二点目は企業と共に地域も成長するが、変化にどう機敏に対応していくかということ。そのためのビジョンがこの計画にどう反映されているか。三点目は人口減少局面で経済成長していくにはどうすべきか、ということ。ないものねだりではなく、あるもの探しをしなければいけない。そういった面でこの計画はビジョンという感じになっている。

委員

専門部会では、P.79からの後半にでてくる、この行政運営を実際にイメージしながら議論してきた。これからどうしていくのか、後ろ4ページが重要だと思う。ネットワーク図で示された各施策がまとまって動いていくのが大切。これにあわせて市の体制自体が変わってい

けば、と思う。職員がこの総合計画を深く理解し、連携し、市民と共に進めていく、という進め方をよく考えなければいけない。ありたいまちに向けて総合計画の進行を市民とどのように実感していけるかが重要である。評価を庁内で連携しながら進めていく仕組みづくりをしてほしい。P.80(3)「実効力」とあるが、新しい表現であると思う。

委員

企業経営や地域振興でよく出てくる言葉。単に実行するのではなく、効果をあげていくことを協調した言葉になっている。

委員

知らない方にはわかりにくい言葉かと思うが、あえてこの言葉を使用することで、この計画を進めていくことに力を入れているのがわかるため、いいと思う。

委員

面白味には欠けるが、きれいにまとまった計画になったと思う。重点課題を作っておかなければ、後で振り返った際に何をしようとしたのかがわからなくなると思うので、実行において優先順位をつけていかなければいけない。

委員

この計画の策定に約3年を要した。よくできあがったが、課題もまだある。今回の成果の功として一つあげたいのは、ネットワーク図にみられるように、施策間のつながり、影響をみながら同時に達成していくという考え方を掲げたこと。実行する行政はこれまで縦割り中心で、組織に従属するような政策であったが、このネットワーク図にみられるように、今後いかに組織を越えて連携していけるかが重要。今後の非線形的な、連続性のない変化にも応じていきたい。

委員

それぞれの専門の方の話に、自分自身も勉強になった。これまでの行政は施策を実行することに力を注いできて、何のための施策であるのかが見えなくなっていたが、何をするための施策であるのかを常に意識することが大切。市民がこれを理解できるようにリードしていくには市役所職員の資質を高めていかなければいけない。ここに今いる人たちの責任は極めて重いということを自覚してほしい。

委員

自分の担当分野は一生懸命勉強したが、他分野はまたこれから勉強していきたい。PTA代表と参加しているが、アンケートにある学校活動にかかわりを持つ市民の割合が23.9%と低い。今後、自分の分野の課題として受け止め、勉強していきたいと思う。

委員

隣接する西宮市は人口が増加し、尼崎は減少しているのは疑問を感じる。P.57の施策の展開に記載された消防・防災についての内容は難しいことだと思うが、市民として非常に心強い。是非、市民に伝え、協力してもらえようようにしたい。

委員

余談になるかもしれないが、隣の市である大阪市の一連の行政改革に関心を持って見ておられる方は多いと思う。実際に大阪市から学ぶこともある。人口が減少していく中で事業をスクラップアンドビルドしていくのも社会の流れである。しかし事業を見直したときに大きなゆらぎが生じているのは、施策の理念が弱かったから。理念・概念をもって市民と共に計画を作り、進めていくことが大切。この計画を、大きなゆらぎの中にあっても、常に立ち返って修正していくための理念にしていきたい。

委員

途中から審議会に参加したため、全体をつかめていないところもあるが、やわらかく、よく出来上がったと思う。行政と市民の関係性は変わってきているし、変わらなければいけない。対等で協力し合い、行政が市民を支援するものにウェイトがおかれている。キャッチフレーズを総合計画策定後に市民意見を聞いて決める、ということだが、市民に理解してもらうのは簡単ではないにしろ、愛着を持ってもらえていいと思う。

歴史をさかのぼってみれば、1700年代の日本では尼崎を含め、関西が文化的に栄えた時期であるが、同時に経済的にも非常に栄えた時である。文化と経済は密接に関連していると改めて感じている。今後広域的な観点で事業に臨んでほしい。

委員

大幅に社会が変わった中で商工会議所も行政と一緒に変わってきた。商工会議所もこの総合計画を取り入れた形でまちづくりを考え、地域貢献していきたい。この計画の中の商工会議所としての役割を担っていききたいと思う。

委員

市民懇話会から審議会に引き続き参加してきたが、市民懇話会で提案した提言は市民レベルでの目線だった。審議会ではそれが立派な書物のように完成し、うれしく思う。4つのありたいまちに向け、P.81 計画の推進、とあるが非常に大変なことである。前市長がPDCAを中心とした課題解決法を推奨されていたため、市役所内部でも浸透していると思うし、これを活かして計画に取り組みれば速やかに実行できるものだと思う。その中で施策評価の面から見ると、指標数値があるものは進捗が把握しやすく、すぐに評価できるし、取り組みやすいと思う。P.103、市民アンケートの尼崎市の取組に対する評価はおもしろい。満足の方が相対的には多いが、不満を訴える人の割合も少なくはない。後者の人たちが納得できるような取り組みをしていきたい。

委員

医療・福祉が専門であり、介護・看護の視点から策定に協力してきた。事務局がきれいにまとめてくれて感謝している。地方自治体の組織が縦割りなのは、法律がそのように規定されているためであり、現場が縦割りになるのはある意味当然である。各論では各分野に重複した目標も書かれているが、合理的に計画を進めていけるのかどうか。尼崎市は分断されていた医療・福祉・教育に関して連携会議が発足したが、まだ進んでいない。目標は地域の力を高めることで一致してはいるが、その中で専門部会がたくさんあり、専門委員が重複して

いることなどが不安な点である。この不安を払拭するためには情報発信に力を入れ、市民に丁寧に説明し、うまく運営していかなければいけない。今日の議論が5年後も同じではいけない。変化に応じた丁寧な説明を市民に対し、続けて行って欲しい。

委員

三点話したい。一点目に、新しく、かつ野心的な、尼崎らしい総合計画ができたと思う。ありがたい形を示していない総合計画が多い中、尼崎市では盛り込んでいる。しかし、今後どう実現していくかはこれからの課題である。二点目に、職員の人事異動等による行政の縦割りをどうしていくか。計画を作った以上は実現されなければいけない。三点目に、市民と共にどう実現していくか。この総合計画の文章には細かい説明まで明記されていないが、言葉の裏に奥行きのある内容になっているため、それがきちんと伝わるように市民説明会等ではしっかり説明してほしい。

委員

昨年から参加し、難しい点もあった。私は議員の立場として参加しているが、特別委員会でも合意できず取り入れられなかった部分もある。P.4「これまでの総合計画」のところで、現在の総合計画に対する評価を入れなければいけなかったのでは、と思っていた。人口減少、財政難の中、小さな市役所づくりをし、市民にも肩代わりしてもらおう、という内容になっているが、行政は市民の生活を守るものでなくてはならない。そういう観点からいけば、この総合計画は行政の主体性が少し低くなっていると思う。

委員

十分意見が反映されず、無力と思うところもあった。政権交代と共に始まった総合計画の議論であったが、3年経った今、政治は何も変わっていない。また、これまでの総合計画は政治に振り回されてきた。本市の財政が、増大する扶助費の圧迫を受けて行政改革が必要となり、人件費の削減等により負担が増え、仕事に振り回されているのも、国政の反映である。そういった条件の中、できることを考えなければいけない。格差と貧困の是正、という視点から何ができるか。市役所は今、新旧の交代と財政難により、力量が減ってきている。何でも市民に持っていけばいいというものではない。地方自治体法にもあるとおり、市役所には、市役所で責任を持つべきものがある。その面から見ると、この総合計画は市民との協働を多く入れた結果、市の責任が少し薄くなった内容になっている印象。力量が下がった中での実現は難しいが、実現させてほしい。

委員

各委員の意見を受け、話したい。先に話題に上がった大阪市で、鶴見区の行政評価のお手伝いもしているが、委員の一人であるイオンの店長に話を聞くと、P D C Aだけでは行きづまるとのこと。P D C Aの前にR V (リサーチ&ビジョン)が必要である。社会の必要性があった上で施策の目的が決まっていく。このリサーチ不足や施策の必要性が弱いがゆえに指摘を受ける状態である。それを踏まえてこの総合計画をみると、施策を考える背景をもう少し補強してもよかったかな、と思う。これを実現していくときには責任をもたなければいけない。

会長

今回で総合計画審議会は最後だが、文言等を事務局と相談し、最終的な完成品とすることをご了解いただきたい。最終の答申は事務局から送らせてもらう。キャッチフレーズは計画の中身がわかるよう説明し、公募するという事になったが、この点に関しては審議会からの申し送りとしたい。

2 その他

事務局

(今後の事務の流れを説明)

事務局

本日が最後の審議会ということで事務局を代表しましてお礼申し上げます。当審議会は平成21年9月5日に第1回を開催いたしまして、総会を12回、専門部会を10回、分科会を13回、のべ35回を開催してまいりました。また、その他にのべ33回の懇話会を開催してまいりました。改めて皆様にお礼を申し上げたいと思います。多くの委員からご指摘いただいたことではありますが、私共全職員がこの総合計画を理解し、市民の方と共有していきたいと思います。審議会は本日で最後になりますが、今後も様々な場面でご指導ご鞭撻を頂きたいと思います。

会長

これで、第12回総会を終了する。ありがとうございました。

以 上